



玉川村立  
玉川第一小学校

自ら取り組み、心豊かでたくましい子ども



令和4年3月16日  
No. 27  
文責：校長 酒井



# 学校だより 玉一っ子通信

## さあ、始めよう最後の授業！（来週は卒業式）

卒業式を一週間後にひかえ、練習にも力が入ってきました。「式」と名のつく行事には様々なものがありますが、思いを伝えるために自分たちで計画したり、練習をしたりする等、企画の段階から携わる「式」は6年生にとって今回の「卒業式」が初めてとなります。6年間の集大成、最後の授業が小学校の卒業式です。

儀式的な行事の中で、最も大切な卒業式。例えコロナ禍に於いても必ず実施したいと誰もが思い、準備を進めてきました。ですから、ただの儀式として終わりにしたくはありません。6年生の思い、在校生の思い、教職員の思いが保護者の皆様、来賓の方々に伝わる「式」としたいと考えています。

一昨日2回目の全体練習を行いました。さすがに6年生の凜とした態度には目を見張るものがありました。5年生も立派です。在校生を代表して参加するという自覚が現れています。今年も在校生は5年生のみの参加。しかし、1～4年生も音声で参加します。

心のこもった玉一小さい卒業式、最後の授業になりそうです。



<凜とした表情の6年生>

### 「おばちゃん手伝う!？」



先週の朝のことです。立哨指導途中、  
「校長先生、聞いてください!」

と、学校のすぐ近くにに住む方に声を掛けられました。いつもはあいさつ程度ですが、「校長先生!」と、かしこまって声を掛けられるのは初めてでしたので、緊張してお話を伺いました。すると・・・、  
「あの、今通った男の子二人いたでしょ。あの子がね、『おばちゃんだいじょうぶ!？』って。」  
詳しく伺うと・・・。

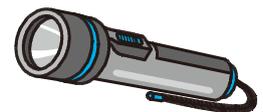
この日は分別ゴミの日。その方は車がないので、毎回、一輪車に資源ゴミを乗せて150m程度離れたゴミステーションへ向かいます。その途中、反対側から歩いた来た二人の「玉一っ子」が近づいてきて「おばちゃんだいじょうぶ、手伝う!？」と優しく声を掛けてくれたというのです。そして、  
「校長先生、わたし、もう嬉しくて嬉しくて・・・、玉一はいい子ばかりだね。」

と、目を潤ませて話を続けてくださいました。

二人は、5年生と2年生。毎日商工会議所から歩いて登校します。途中で、先ほどの方とも顔見知りになったのかも知れません。毎回一輪車でゴミを運ぶ姿を見て、「大変だなあ」と感じていたのでしょうか。おそらく声を掛けるにはちょっとした勇気が必要だったことと思います。

「だいじょうぶ!？」の一言が、気持ちよい朝を運んできました。

### あれから11年（東日本大震災臨時集会）



東日本大震災から11年。本校では3月11日、臨時の全校集会（放送）を行いました。

6年生はようやく歩けるようになり、5年生は生まれたばかりの乳飲み子だった頃、もちろん4年生はまだこの世に生を受けていません。10年一昔といいますが、震災を昔話で終わりにしたくはないと思います。命の尊さ、人々の温かさ、食べ物の大切さ・・・、震災から学ばせ、語り継がなければならないことは沢山あります。あたり前があたり前でないことについてしっかり伝える必要があります。

遠くヨーロッパで起こっている戦争についても、機会をみて分かりやすく伝えるつもりです。

裏面もご覧ください→

# 東日本大震災の話

令和4年3月11日

「キンキュウジシンソクハウデス…」

驚かせてすみません。

これは、地震の発生を事前に知らせる、緊急地震速報というものです。みなさんも耳にしたことがありますね。どんな気持ちになりますか？校長先生には、こわくて、恐ろしくて、とてもかなしい音に聞こえます。今から11年前の今日、この音がしばらくの間鳴り続けました。2011年3月11日（金）午後2時46分。

1000年に一度といわれるこれまでに最も大きな地震が、私たちの住む東北地方を中心とした東日本で、この日起きました。震源地は福島県沖、マグニチュード9、ゆれの大きさは、玉川村で震度6弱、とても立ってられない大きなゆれです。建物は倒れ、道路は崩れ、海沿いでは、その後に襲ってきた津波で、多くの人が命を奪われ、学校の中には海水と一緒に様々なものが入り込みました。避難途中に逃げ遅れた子ども達が波にさらわれました。10年以上たった今でも、土砂の下敷きになったり、津波で流されたりして、見つからない人は2000人以上とされています。

実は11年前のこの日に、玉川村では中学校の卒業式がありました。午前には式が終わり玉一小にも沢山の卒業生があいさつにきました。その中には6年2組の金子香菜子先生の姿もありました。そして、その数時間後地震が起きました。

玉一小は無事でしたが、玉川中（当時の泉中）は、体育館のガラスが粉々に割れる被害がありました。玉川村にも大きな被害はありませんでしたが、この日、何万、何十万、という人が様々な場所で、もっと大変な体験をしました。命を落とした人、けがをした人、家族とはぐれた人、古里を追われた人の中には、もちろんみなさんと同じ小学生も、生まれたばかりの赤ちゃんもいました。同時に、たくさんの命も助けられました。ボランティアの人たちが、ぐちゃぐちゃになった建物を片付けたり、家を無くした人に温かい食べ物をこさえてくださったりしました。役場の人たち、警察や消防署、自衛隊の人たち、地域の消防団のお父さん、婦人会のお母さん、みんなが協力して私たちの命と生活を守ってくれました。

震災後しばらく経ってから、いわき市の当時の6年生がこんな作文を書きました。

---

わたしのクラスでは、給食の時間が終わると、お皿を片付けるためにみんなが配膳台のとなり並びます。私の番がくると、ほぼ毎日食缶の中には残飯があります。わたしもあたりまえのように残った物を捨てる時があります。でもそれがどれだけ贅沢なことなのか、わたしたちは三年前に体験しました。

福島県は、三年前の大震災で様々な被害を受けました。そんな福島に給食さえ食べられない国の人たちも避難物資を送っていただきました。その時、福島の人々は食料、水がどれほど大切な物なのか改めて感じさせられました。

---

この女の子は作文の最後に、「**ありがとうの気持ちを忘れないようにしたい。**」と綴っています。

「**風化**」という言葉があります。これは石や土が、長い間風にさらされて形が変わり、やがて無くなってしまふことを表した言葉です。私たちの記憶や思い出もそうですが、時間が経つと忘れてしまうことがたくさんあります。しかし、私たちは決して忘れてはいけません。11年前の今日、大きな地震があったこと。たくさんの方が犠牲になり、たくさんの命が救われ、たくさんの方々の努力で、今、私たちは元気に生活できていることを、「**風化**」させてはいけません。

「**ありがとうが言えること」「給食を残さず食べること」「友達に優しくすること」「弱い者いじめはしないこと」そして何より「命を大切にすること」**が大切です。

今日は、学級の友達と、先生と家族と震災について、命について考える一日にしてください。

この後、教頭先生から黙とうについてのお話があります。もうしばらく耳を傾けてください。